

西国供養塔

平木を歩く

江戸時代中ごろからこの地域からも遠近の寺社などにお参りする者があり、その記念に立てた巡拝塔・巡礼塔を見ることができま

す。境内の桜がきれいな平木（平和地区）・観音寺の墓地の入り口に、高さ130cmほどの西国供養塔があります。

正面に「西国供養塔」と大きく彫られ、側面や基壇部（石塔の下部）には細かい文字が刻まれています。西国とは、近畿2府4県と岐阜県に点在する33か所の観音霊場のことです。多くの観音霊場の中で最も古い歴史を持つとさ

れますが、遠くにあるためか市内ではその巡拝塔も多くありません。

市内で見られる巡拝塔は、山形県の出羽三山、埼玉県の秩父観音霊場、関東地方の坂東三十三観音、日光（栃木県）、善光寺（長野県）などがあります。それぞれ単独の巡拝塔もあれば、西国・坂東・秩父の百観音と出羽三山を一つの塔にまとめたものなども見られます。

観音寺境内の塔は西国だけをまつり、そこに刻まれた文字から次のようなことが知られます。

造立は1835（天保6）年で、巡礼した人の三回忌に当たります。観音寺の本尊は、長谷寺（第8番札所・奈良県）を模したとされることから巡礼に出たのかも知れません。

遠隔地をお参りした人の供養のため、基壇部に見られる平木村の山、中才、釈内などと近隣の荻野村、登戸村の石毛、川口、椎名、増田姓の三十数人が立てたのでしよう。

西国供養塔はもう1基、東小笹（共興地区）・慈眼寺境内にもまつられています。これは、1847（弘化4）年に東小笹村の熱田、江波戸、佐藤、塚本姓と野手村（野田地区）の熱田姓の三十余人により立てられました。いずれも姓が刻まれていることから村内でも裕福な農民だったと考えられます。

江戸時代の農民たちの生活の一端をこれらの石造物から知ることが出来ます。幸いにして地域の寺院や神社境内に立てられたため、40年ほど前に調べた時のままの状態でも保存されていました。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

関秘書課広報広聴班

☎73・0080



平木・観音寺境内に立つ西国供養塔